

序

骨粗鬆症は最も頻度の高い疾患の1つといわれ、特に、高齢化社会においては増加の一途をたどっています。原発性骨粗鬆症に加えて、疾患やステロイド薬などによってもたらされる多様な続発性骨粗鬆症も少なくありません。しかし、いずれも脆弱性骨折を生ずると、日常生活動作を著しく障害します。一方、この領域の臨床医学の発展は目覚ましく、骨粗鬆症治療薬の台頭に伴い、骨量や骨質を改善し、骨折を減らすことが可能となりました。斯様な新展開は、RANKLやカテプシンKの発見をはじめとする日本骨代謝学会の先輩方が築き上げた多大なる基礎研究の成果が基盤となっています。

骨格系は体を支持する重要な構造体ですが、骨・ミネラル代謝を司る重要な臓器でもあります。骨および硬組織は、構造的に脊椎動物の生命体を守り、骨・ミネラル代謝を介して機能的に生命基盤を支えるといっても過言ではありません。また、骨・ミネラル代謝の異常は多様な疾患を引き起こします。その代表が骨代謝異常症、すなわち、骨粗鬆症です。さらに、歯周病や骨転移など幅広い疾患群が含まれてきます。

その多様性のために、骨・ミネラル代謝学は、解剖学、病理学、生化学、分子生物学、免疫学、再生医学などの基礎医学の全領域と交絡し、歯学、内科学・小児科学（代謝内科学、リウマチ学など）、整形外科学、放射線科学などの臨床領域に至るまできわめて学際的、横断的、かつ重層的な学問です。実際、日本骨代謝学会の会員も、医学部、歯学部、薬学部、理学部、工学部など幅広い分野から集まっています。だからこそ、多岐にわたる内容をまとめ、知識を整理し、できれば容易に理解を深めていく必要があります。

本著では斯様な背景に応じるべく、「骨辞書」をめざして企画いたしました。キーワードとイラストを中心にして、骨・ミネラル代謝の基礎、機能と制御、病態と診断・治療に関して、日本骨代謝学会のオールスターともいえる学会員の皆様の英智を結集し、ご執筆いただきました。心から御礼申し上げます。骨・ミネラル代謝学に関する知識を整理し、10年先のこの分野の進歩を見据えて、新たな発見や新規治療の開発をめざして、次のステップへ踏み出すことが求められています。本著が新たな進歩の礎を築くことに資するものと期待しています。

2015年3月

日本骨代謝学会
理事長 田中良哉